

全国病院・クリニック訪問

寺沢病院 糖尿病内科

〒770-8004
徳島市津田西町 1-2-30
TEL: 088-662-5311
URL: http://www.terasawa.or.jp/



副院長：鶴尾美穂先生
Tsuruo, Miho

スタッフ（糖尿病チーム）

医師：常勤3人、非常勤4人
（うち糖尿病専門医4人、糖尿病研修指導医1人）
看護師：常勤10人
（うちCDEJ10人、LCDE10人）
管理栄養士：常勤2人
（うちCDEJ2人、LCDE2人）
薬剤師：常勤1人（CDEJ、LCDE）
理学療法士：常勤3人
（うちCDEJ3人、LCDE3人）
作業療法士：常勤2人（うちLCDE1人）
CDEJ：日本糖尿病療養指導士
LCDE：地域糖尿病療養指導士

指導・活動内容

- 当院は約20年前から多職種チームをつくらせて糖尿病療養指導（外来指導・糖尿病教室の運営・糖尿病教育入院・体験食事会など）に取り組んでおります。
- 毎週水曜日には黒田暁生先生（徳島大学病院）による1型糖尿病外来を実施し、最新の治療に取り組んでおります。
- スタッフの専門性を生かした取り組みとして、栄養・カーボカウント・服薬・インスリン自己注射・SMBG・インスリンポンプ（CSII・SAP）・運動療法などの各指導およびフットケアなどを行っています。

施設・設備

外来・入院・在宅に対応しています。外来は内科・外科・放射線科があり、専門外来として糖尿病内科・肝臓内科・循環器科・消化器科などがあります。入院は一般病棟・療養病棟（医療+介護）があり、デイケアや在宅サービス（訪問看護・訪問介護）を通して高齢糖尿病患者の食事療法やインスリン療法などの薬物療法にも対応しています。高齢者向け施設として、グループホーム・サービス付き高齢者住宅があり、後者ではCDEJ資格をもつ看護師が常勤で対応しています。

検査体制

外来（院内）：血糖値・HbA1c・尿糖・緊急血液検査の一部
その他の検査：血ガス・SpO2・ECG・XP・CT・エコー（腹部・頸動脈・甲状腺・心臓）・上部下部消化管内視鏡検査・ABI・骨密度・CGM・マンモグラフィなど

（2016年7月現在）



一昨年（2014年）撮影したこの写真は、日本糖尿病協会 Facebook における世界糖尿病デーフォトコンテストで「いいね賞」の2位を獲得した。

個々の実力を発揮したチーム医療により ありとあらゆる糖尿病診療がここに揃う

寺沢病院があるのは、徳島市東部、海に程近い津田西町。漁業が盛んで、市街地から向かう道すがらには漁具を扱う商店も存在する。隣接する津田八幡神社には大きなクスノキがあり、夜にフクロウの鳴き声が聞こえることもあるという。

開業したのは大正6（1917）年で、来年には100周年を迎える。一般病棟以外に療養型病棟・介護療養型病棟を備えるほか、居宅介護支援事業所・グループホームを併設しており、在宅から入院まで幅広く支援する体制が整っている。高齢糖尿病患者の急増が臨床現場における課題となっている昨今、寺沢病院が実践する糖尿病診療は多くの示唆に富んでいるに違いない。



- ①：外来看護師の森岡隆子先生「患者さんが安心してできるような心がけています。自己注射やSMBGも外来で導入しますが、手技を練習しても不安な方には「いつでも一緒に練習して頑張りましょう」と声をかけています」
- ②：栄養士の秋田賢子先生「患者さんと話し合っ問題点・改善点に自分で気づいていただくようにしています。主食の量が大切なので、指示エネルギーに基づく主食のグラム数をきちんと確認します」
- ③：薬剤師の後藤廣平先生「薬剤師はジェネラリストであるべきと思っています。個々の患者さんは罹病期間や家庭環境などの状況が異なりますが、それらを総合的に判断し取り組む必要があります」
- ④：作業療法士の橋本晶慶先生「糖尿病教室委員会として教室の質向上のためにいつも工夫しています。改善点を洗い出す目的で、スタッフ間の相互評価表を導入しました」
- ⑤：外来看護師の阿部知恵先生「院内検定である「インスリンポンプエキスパートナース」として、患者さんが的確に理解できるわかりやすい説明を目指して、患者さん向けのビデオを制作したり、院内外で勉強会を開催したりしています」



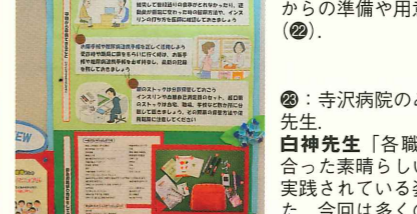
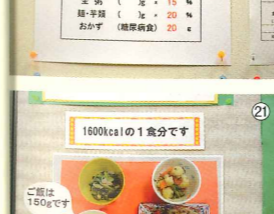
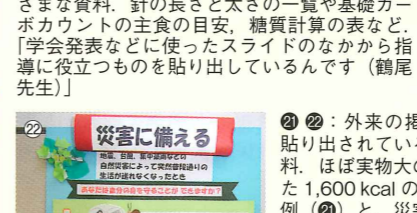
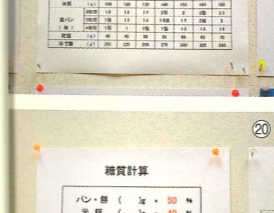
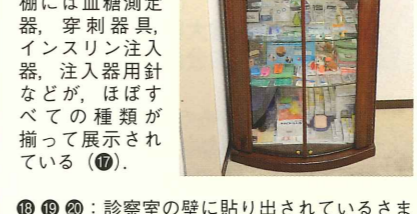
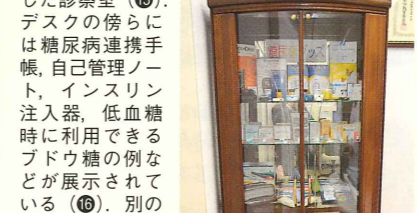
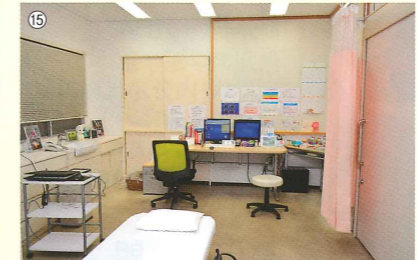
- ⑥：病棟看護師の高村玉緒先生「インスリンポンプやSAP外来導入のクリニカルパスを作成しました。入院とは異なるので導入した翌日に電話をしたり、3日ごとの交換にきちんと来ていただくようなパスに記載するなど工夫しています」
- ⑦：療養病棟看護師の上野裕子先生「高齢の患者さんに少しでも糖尿病のことを理解していただくように、説明資料など、いつも試行錯誤の連続です」
- ⑧：療養病棟看護師の藤島周子先生「高齢の患者さんに家族の方が「少しは間食させてあげたい」と考える場合があります。その際、制限するばかりではなく「これなら大丈夫ですよ」という提案を話し合っ提案できるようにしています」
- ⑨：ケアマネジャー（看護師）の奥村滋子先生「1型糖尿病の高齢患者さんですと、いままではできていたインスリン注射の手技ができなくなってしまう場合もあります。それでも決められた単位数のインスリンを注射できるように外来の看護師、デイケアの看護師などと密に連携をとってマネジメントします」
- ⑩：外来看護師の堀筋富士子先生「外来の看護師は各職種をつなぐのが役目。医師の指示や受診時の患者さんの様子をケアマネジャーに報告し改善点を見つけたり、逆にケアマネジャーから自宅の様子を聞いたりして、次の受診につなげるようにしています」



⑪⑫：糖尿病教室の様子。コント（⑪）と阿波おどり体操（⑫）。阿波おどり体操は、平成13（2001）年策定の「健康徳島21」に基づき県民の健康づくりのサポートツールとして制作された。教室後には、スタッフ間の相互評価表によって「内容のわかりやすさ」「声の大きさと速さ、言葉のわかりやすさ」「マナー、問題点となる行為の有無」など具体的な5項目に関して評価し合う。



⑬⑭：体験食事会。すでに130回以上開かれており、最新の回のまとめが展示されている。「少人数で医療スタッフも一緒に食事しながら1時間たっぷり話します。1対1では聞き出せないお話が聞けて、問題点が見つかることもあります。会の最後にはその日の献立やその写真、レシピなどをまとめたスタッフ手づくりのしおりを参加者にお渡ししています（鶴尾先生）」



医師・医療スタッフの視点

訪問者 白神敦久 Shirakami, Atsuhisa 先生
徳島県立中央病院 糖尿病・代謝内科



チーム力の強さ —それぞれが力を出せる環境づくり—

まずは糖尿病療養指導士を中心としたチーム力の強さに圧倒されました。無論それには鶴尾先生が、院内検定である「インスリンポンプエキスパートナース」を創設したり医療スタッフによる学会発表を推奨したりして、各職種が力を発揮できる流れ・環境をつくりだしていただいているのだと思います。加えて学会発表用に作成したスライドも診察室の壁に資料として掲示するなど、すべてを臨床に還元する意識がチーム全体で共有されているようでした。

トップダウンではないなかで各スタッフが労をいとわず柔軟なアイデアを出しています。

類を見ない広く深い糖尿病診療 —多岐にわたる意欲と実践—

1型糖尿病外来においては最先端のSAP・CSII・カーボカウントが取り入れられ、スタッフもこれらに対応すべく指導技術の向上に励んでいらっしゃいます。かと思えば、医療施設と介護施設との併設により、高齢糖尿病患者さんにおける治療と看護と介護の融合を実現されています。介護施設にCDEが介入し、インスリン治療者に対して必要以上に低血糖を恐れず適切にインスリンを使う体制ができています。

糖尿病に関するほぼありとあらゆることに徹底的に取り組ま実践されている印象で、学ぶべき点が多くありました。

患者さんの目線で寄り添う

—患者さんは糖尿病治療のエキスパート—

「患者さんは糖尿病治療のエキスパートだと思います」という言葉に象徴される、患者さんに対する敬意、そしてそこから発生する患者さん中心の取り組みが印象的でした。

糖尿病教室ではコント形式など、より面白みを感じ込んで患者さんが興味をもてるかたちを取り入れていました。134回続いているという体験食事会も、その長い歴史は患者さんの信頼の裏づけでしょう。血糖測定器や穿刺器具、インスリン注入器とその針を全種類全色揃えているのも、気に入った器具で血糖自己測定やインスリン注射を続けてもらいたいと医療側が努力している現れです。

こんな先生方のもとでなら患者さんも安心して治療を受けられるのではないのでしょうか。

⑮⑯⑰：広々とした診察室（⑮）、デスクの傍には糖尿病連携手帳、自己管理ノート、インスリン注入器、低血糖時に利用できるブドウ糖の例などが展示されている（⑯）。別の棚には血糖測定器、穿刺器具、インスリン注入器、注入器用針などが、ほぼすべての種類が揃って展示されている（⑰）。

⑱⑲⑳：診察室の壁に貼り出されているさまざまな資料。針の長さや太さの一覧や基礎カーボカウントの主食の目安、糖質計算の表など、「学会発表などに使ったスライドのなかから指導に役立つものを貼り出しているんです（鶴尾先生）」



㉑：寺沢病院のみなさんと白神先生。白神先生「各職種が力を出し合った素晴らしいチーム医療を実践されている姿に感動しました。今回は多くのスタッフのみなさんからお話をうかがい、たいへん勉強になりました。ありがとうございました」